

議長賞

(小学生の部)

犯罪をした若者の更生について

岸和田市立大芝小学校 6 年 青木 埜の子 さん

近年、相次いでいる警察官をよそおった特殊詐欺で若者の被害が急増しています。私はなぜ、20 代から 10 代の若者を中心に闇バイトに加担する人が後を絶たないのか、その理由を調べました。

私が闇バイトをテーマに書いているのは、闇バイトなど一度犯罪をした人が差別される現状を見直す必要があると考えたからです。確かに犯罪は悪いことです。しかし反省した人のことを悪く言ったりその人の人権を侵すような発言をするのは違うんじゃないかと思います。今の世の中では罪を犯した人を罰するだけでなく、更生を手助けすることも必要ではないでしょうか。この考えをはば広い年代の人に伝えられたらいいなと思っています。

最近では、未成年者の犯罪が増え万引などの軽犯罪から闇バイトでの強盗傷害や強盗致死などの凶悪犯罪まであります。

闇バイトに加担すると悪い奴と見られることがほとんどです。しかし普通の家庭で育つとお金が必要になり犯罪に手を染めることもそうなのではないでしょうか。近年そうした犯罪を犯す人の特徴がみえてきました。その一つとして、気持ちを言語化できないというのがあります。その例として、受け子出し子を 9 回した 20 代男性の話があります。「何も思わなかったんです、自分は 9 回もやったのに。たまに自分が怖くなります。」10 代のリクルーターの話では「ちょっと話を聞いてあげただけなのにすごくいろんなことを話してくれる。本当に誰にも話せなかったたんだ、って思いました。」と語っています。この 2 人の話を聞いて思ったことをまとめました。自分の感情を表に出せないことはとても辛いことだと思います。相手もその人の心情が分からないと困ることもたくさんあると思います。そうした人にならないためにも正しく教育することは、とても大切だと感じました。

では、このように犯罪をしてしまった人はどのように更生するのでしょうか。犯罪の更生は社会復帰を支援するための重要なプロセスであり再犯を防ぐためには地域社会の協力は不可欠です。再犯を防ぐための支援を行う制度で更生保護というのがあります。具体的には地域社会の協力を得て、立ち直りを促進し自立を助ける活動のことです。更生保護は保護観察所やボランティアによって実施され、地域社会の理解と協力が重要です。

このように一度犯罪を犯しても立ち直ることはいくらでもできます。そのためには地域社会全体がその人を受け入れる必要があります。

今回、罪を犯した人の更生について思ったことや感想を考えました。犯罪はいつおこ

るか分かりません。もしかしたら私も犯罪をしてしまうかもしれません。罪を犯しても何らかの事情がある人はたくさんいます。それを理解して差別なく話をできる人になりたいです。